かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
（0865）
電話 66−1311
FAX 66−1314

今年も元気でかえって来たよ！
（7月29日 笠岡詰所玄関前で）

教祖１３０年祭に向かって

三年千日　**さあ！　おたすけ**

祈る　動く　つなぐ

立教176年
8月号

元気な声で賑わった10日間

立教176年こどもおぢばがえり

「立教176年こどもおぢばがえり」が、「よろこびいっぱい！ さあひのきしん」のテーマで7月26日から8月4日までの10日間に亘って行われ、おぢばは連日こども達の元気な声で賑わいました。

今年は、教祖百三十年祭三年千日踏み出しの年、また、60回の節目のこどもおぢばがえりに当たり、「全教会帰参」「初参加者のご守護」とお打ち出しをいただき、年祭活動に相応しい動きをとつとめさせていただきました。

朝のおつとめ後の真柱様のお言葉では、「おぢばは親神様がおられる親里で、全ての人間のふるさとです。遠い昔にこのおぢばで初めて人間をお創り下され、親神様はかわいい子供である世界中の人間が互いにたすけあって暮らす陽気ぐらしの世の中になることを待ち望んでおられる」と、親神様の思いをお話し下さいました。続いて、「私たち人間は、親神様を親とする兄弟で、皆さんのお父さんやお母さんが皆さんに幸せになってほしいと願って、時には厳しく時には温かく、愛情を持って育てて下さっているように、親神様も世界中の人間がけんかをせずにたすけあって、仲良く暮らしてほしいというのが一番の望みです。皆さんも、兄弟はもちろん、友達とも仲良くし、困っている人には話を聞いてあげたり、力になってあげたりという、たすけあいのできる人になってほしい。家族の中や学校で、小さい子の手を引いてあげたり、荷物を持ってあげたり、引率の人の手伝いをしたりということを実行していったなら、だんだんと広がっていって、陽気ぐらしの世の中が来ると思いますので、たすけあいということも覚えて帰ってほしいと思います」と、子供たちにわかりやすく、実行しやすい内容を具体的にお示しいただきながら、たすけあいの重要性をお話し下さいました。

詰所では、今年も育成掛による朝のおつとめ、ラジオ体操、目標（めどう）発表、お休み行事があり、また、行事掛による模擬店が、7月27日・30日、8月1日・3日と開催され、大人も子供も夕べのひとときを楽しみました。また、毎日17時から各隊の代表に大教会長様より帰参の感謝状が手渡されました。

今夏は、今まで経験したことのない暑さといわれる猛暑の中でしたが、大過なく無事につとめられましたこと御礼申し上げます。

育成会員の方々には、暑い中、お世話取り大変ご苦労様でした。

また、詰所ひのきしんの皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

（少年会笠岡団団長　武内正美）

＜実行目標＞人のたすかりを願いましょう

おたすけ・お願いカード 集計：12，649枚

平成２５年６月２１日～７月２０日

平成２５年累計：39，729枚

第2回「家族揃って月次祭参拝」開催

7・21 祭典後

少年会

少年会笠岡団（武内正美団長）は7月21日、大教会月次祭祭典後、神殿で「家族揃って月次祭参拝」を開催、育成会員を含む多数が参加した。

昔懐かし紙芝居

婦人会・青年会・少年会の三会が合同で提唱している「家族揃って月次祭参拝」を呼びかけでなく推進実行していこうと4月に続いて開かれたもの。

少年会員向きのお話しや催し物を通して、教会の楽しさ、また少しでも教理にふれてもらい、将来、教会につながってもらいたいと、祭典が土・日曜日・休日の月に計画している。今回は、紙芝居「ちゅうちゅうはっけよい」が上演された。祭典時、教祖にお供えされたお菓子が参加者に配られた。

今後の開催予定は、8月・9月・12月の各祭典後。同会では1人でも多くの参加を呼びかけている。

よふぼく勉強会開催 テーマは「おとまり会」

7月月次祭後

育成部

育成部（吉岡壽部長）では7月21日、大教会月次祭後会議室で「よふぼく勉強会」を開催。講師は中島誠治先生で、「おとまり会」をテーマに約15人が参加した。

先生は、自分のいんねんの自覚から天理教は求める信仰ではなく、与える教えである事を柱に自教会でのおとまり会を紹介され、「理は小さい頃から映さにゃならん 軽い理はありやせんで」とのお言葉を引用して、親から子、子から孫へと繋がる信仰を思い続け、縦の伝道の大切さを深く胸に刻んで毎年おつとめ奉仕者増員を夢に描き活動している様子を話された。

その後、質疑応答では和やかに世間話しをしている雰囲気で進められ、最後におとまり会は誰のためでもなく、すべて自分に返ってくる親神様の大切なご用であると締めくくり閉講した。

縦の伝道の大切さを

長い歴史と関わる人々の真実に支えられて

第71回 英語講習会 開催

海外部

今年の英語講習会は大教会で8月7・8日と、ハワイからジェイソン宮内氏（浅草大教会）をゲストとして迎え開催された。講習会は日中36度を越える猛暑にも関わらず、17人のスタッフと29人の参加者が集まった。下は幼児から小学4年までのクラス。小学5年生クラス・6年生クラス・中学2年生クラス・3年生クラス・大人クラスと分かれて、それぞれの目的にあったゴールを目指した。最初参加者数に対してスタッフの人数不足を心配したが、毎回行事を開催させて頂く度に感じる様に、必要な人達がそれぞれの徳分を活かして蔭となりひなたとなって支えてくれるから進めて頂く事が出来る、本当に有難いとこの度も思えた。

講習会は、英語を使ったゲームあり、ゲストの信仰談、20数年ぶりに参加してくれた上原聡先生の話、昨年用木となったナイマ女史のタンザニアの異文化談を聞かせて貰ったり、きもだめし、英語ウォークラリー、テーブルマナーの勉強、英語での自己紹介、スキットのコンテストなど盛り沢山の内容を持って幕を閉じた。今までの長い講習会の歴史の中で、参加してくれた人達が海外留学をしたり、中学校の英語の先生になったり、何か英語を通じて人生を広げて行ってくれているように、この度参加して下さった縁ある人達が、聞いて話して覚えたフレーズを持って、将来自分を活かして行くきっかけになることを楽しみにしています。今年の講習会を支えてくれたゲスト、多くのスタッフ、食堂のひのきしんをして下さった婦人会の方々、沢山の人達の心を頂いて開催できた事を心からお礼申し上げます。有難うございました。また、来年もより多くの参加者を楽しみにしています。（海外部長　上原志郎）

暑さに負けずいっぱい勉強

第五回 タンザニアおたすけ訪問

海外部

今年もタンザニアに訪問させて頂いた。毎年大きな目的が二つある。一つは岡山・広島両教区から送られているみかん箱で約２２００個の衣料救援の配布である。「物資が無く困っている人達へ何か」という真実の箱は、今年も半分はキゴマ市の難民キャンプへ送られ、残り半分はダルエスサラーム市やソンゲア市の孤児院、小学校、中学校、病院へ配布された。私たちの滞在中に、アルーシャ市の北に位置するマサイ村とダルエスサラーム市にある孤児院を訪問して衣料、タオル、文具などを配布させて頂いた。

もう一つの目的であるおたすけ活動は、今年も身近な人達からおさづけを中心に運ばせて頂いた。現地にいる用木も４人に増え、共々におたすけを通して成人させて頂ける機会を頂いている。別席運び中の人達にも教祖130年祭の思いを伝えさせて頂き、おたすけカードも64枚預かって帰って来た。

毎年、行かせて頂くのに大変な覚悟がいる。黄熱病、マラリア、赤痢、肝炎などの病気や移動中の事故などである。神様を信じ、お凭れするしか無いこの訪問で、毎年不思議な神様、おやさまのお働きを感じさせて頂けることがある。

昨年と今年は２人ずつで行かせて頂きましたが、興味がある方は是非一緒に行きませんか？

なお、９日間の滞在中に路上でのおてふりを３回、タンザニア人の身上平癒と心のたすかりを願ってつとめさせて頂いた。英文天理教パンフレット20部、御供（ごく）100袋、85人の方に、93回のおさづけを取り次がせて頂いた。微々たるもタンザニアの未来に繋がる種になる事を願ってやまない。

（海外部長　上原志郎）

昨年用木になったナイマの両親と

マサイ村でのおさづけ

有志ひのきしん隊 常時実施

青年会

◆第６回有志ひのきしん隊

７月20日、６回目となる有志ひのきしん隊が、旧弥高山分教会（岡山県高梁市）に出動し、８人が参加した。

第６回）木を少しずつ切っていく

草や竹などが鬱蒼（うっそう）と茂る中、草刈機やノコギリを手に、敷地内の整備を行った。

◆第７回有志ひのきしん隊

８月４日、７回目となる有志ひのきしん隊が、呰部分教会（岡山県真庭市）に出動し、５人が参加した。

時折、雨粒が落ちる中、教会の敷地に生えた草木の除去を行った。

第７回）広い敷地内を分担して作業

温故知新

いきいきエピソード 27

「おふでさき御話」について、この本の巻頭の「自序」「はじめに」そして内容を一部紹介する上でおふでさき第一号の冒頭部分第一首から第八首までの解説を引用する。

自序

以前から本部で教会長資格検定講習会の講師として、おふでさき全編あるいは前半（一号より八号まで）、後半（九号より十七号まで）のお話をさして頂いておりましたが、昭和二十一年八月乙種講習会（後、検定講習会、教会長資格検定講習会）が始まりまして、第一回よりおふでさき講義の講師の御命を頂いて爾来昭和四十七年頃まで勤めさして頂きました。もっともおふでさきは、若年の頃から読まして貰いたいと

思って居りましたが、現今のように印刷したものがありませず、なかなか読まして頂く事もできませんでした。それで家(池田大教会)にありましたおふでさきの筆写本を無理にお願いして、十八歳の頃半紙に毛筆で全文を写さして頂き、その後も二回毛筆で写さして頂いて読まして頂いておりましたので、御命を頂いた時には非常の感激と喜びでありました。

講習会の最初の頃は全編のお話後に前半(一号より八号)、後半(九号より十七号)のお話をさして頂いておりました。そうした事から、中には、二代真柱様がおふでさき研究の席上お教え頂いた事もあり、私の悟らして頂いた点やお歌の御思召より各自が心得さして頂かねばならん事柄をお話しした点もございます。しかし何分未熟のもので、至らん点も多々ある事と存じます。今後、もっともっと悟り分けて頂く方々もある事と思いますが、一応ご参考までにと思っておりますので、間違いの点がありましたら御教示下されましたら結構と存じます。なお、今後しっかりご研究下さる事をお願いいたします。

教祖九十年祭への第一年目

立教の良き日

上原　繁雄

はじめに

おふでさきは、教祖が明治二年、七十二歳の御時より、明治十五年、八十五歳の御時までに、自らお誌し下さったものであり、十七号一千七百十一首のお歌が誌されています。

このおふでさきは、その当時の事を仰せ下さったお歌もあるし、また、将来にわたって、親神様の思召を、聞かして下されているお歌もあります。いずれにしても、我々人類が、未来永劫に践み行うべき道をお示し下されているのです。しかも、おふでさきは、天理教の原典の一つです。

天理教の原典は、おふでさき・みかぐらうた・おさしづの三つであり、この中で、おふでさきとみかぐらうたは、教祖が、自らお誌し下さったものです。おさしづは、教祖がお姿をお隠しになられた後、本席様に親神様が入りこまれ、その思召を聞かして下さったものです。

お道の教義は、このおふでさき・みかぐらうた・おさしづの中から、すべて出ているのです。教典も、この三原典から編述されています。

原典とおふでさきの概要については以上ですが、これから第一号から順を追って講義させて頂きます。

第壹号　明治貳巳年正月従　七十貳才老女

よろつよのせかい一れつみはらせど
むねのハかりたものハないから

ここで注意しておきますが、かたかなの「ハ」は「わ」と読んでいただきます。

親神様が、この世を創められて、何億年の間には、何億という大勢の人が、生まれては出直しているが、いつの時代を眺めても、胸の解った者はいない。

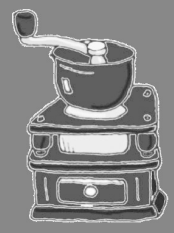
さて、この胸とは、どういうことでしょうか。これが眼目だと思います。

神のお言葉に、「この道は胸の道、胸の道は心の道」とあります。ですから、ここでは親神様の思召を解った者はいない。人間を創め世界を創めた親神様のお心を了解している者はない、と仰せ下されているのです。

（この項続く）

（前史料部長）

談話室



私の寝言　その1

神村分教会　下田茂美

平成十一年に、ヨーロッパに出向いた。その切っ掛けは、私達姉妹三人が、月に一度のデートの日でした。フランスから帰って間のない姪(妹の子)が、妹と一緒に来たのである。その頃、私の心は、荒んでいた時であった。外国にでも行ってみようかな、と思っていた矢先の事だったので、姪に聞いてみた。外国はどう？ すると、口数の少ない姪は一言、「この世に生まれて来て良かった」。とただそれだけ言った。それを聞いて私は、思い切って行くことにした。出発したのは、五月十二日である。

それから、二年目の十三年にスペインに向かった。これも五月だった。スペインは、少々暑かったことを覚えている。昔から、馬鹿の大頭と云う諺(ことわざ)が有る。正に自分の事である。そんな訳で、私には合う帽子がない。旅行は日傘にしていた。その当日、名所巡りをしていたら、公園らしき所に差し掛かった時、花壇の淵に腰を下ろしていたお爺さんが、私の方を向いて、大きな声で怒った様に、訳の分からぬ事を喋った。今、お爺さんが何と云ったのかと、添乗員に尋ねた。「折角太陽が照って下されているのに、傘をさして太陽を遮(さえぎ)るとは何事か、罰当たりめが」、と云ったそうである。これを聞いて胸を突き刺される思いがした。それもその筈、月日親神様に生かされていると、口では言いながら、行動は全く正反対である。親神様に背を向けているのだ。これではまるで、恩を仇で返している様なものだと気が付いた。親神様は、私がスペインの地にいてまでも、お仕込み下されたのかと思うと、胸が熱くなる思いがした。このお爺さんの口を通してまでも、親神様は、私に成人の道への糧としてお与え下された言葉であろうと、受け止めた。もう絶対に日傘はさすまいと決めた。あれから十二年も経っている。本当に、月日親神様に生かされている事を感謝すれば、暑さは半減する。実に、勿体ない限りである。

「にんけんハみなく神のかしものや なんとをもふてつこているやら」

今日も、このおうたが頭を過ぎる。暑さ寒さに感謝すべきであろう。スペインの、お爺さんに感謝することを、忘れてはなろうまい!!

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌八月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「出」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠　東悠分教会前会長夫人　田林美智子さん

青春の思い出あまた地場の四季

佳詠　芦品分教会教人　金谷眞佐代さん

出しゃばらず慎み心を忘れずに

▼表紙写真

（上原喜三　詰所掛員）

親里ですごす三年千日を語る！

去る４月７日、天理高校総合体育館で平成25年度の入学式が挙行され、在校生総代の歓迎の言葉に応えて、新入生431人を代表して、森山将大君（瑞雲分所属）が力強く宣誓を行いました。

新入生総代森山将大君による力強い宣誓

『天理高校新聞』の「新入生の声」の欄で、森山君は「これからの天理高校の生活は、一生記憶に残る思い出となると思います。特に、人との関わり合いを大切にしたいです。入学したばかりでまだ関わりの無い人も多いですが、一人でも多くの友達を作り、『一手一つ』の精神で勉強や部活、行事などに取り組んで、悔いの残らない３年間にしようと思っています。」と述べています。

思い返せば４年前（小学６）にバタフライの選手で活躍をして、記事を掲載していただきました（立教172年9月21日発行『かさおか』第48巻第8･9号⑦ページ）。

その彼が、今度は〝天理高校水泳部員〟として活躍してくれるものと夢見ております。

父母の熱心な信仰態度から、行儀よく正しく優しく強く育ってきました。兄妹弟で水泳を勤しみ毎日の練習を怠らず、さりとて勉学にも劣ることなく、優秀な成績で入試の難関を突破して〝新入生総代〟を拝命したものでしょう。

私は、彼に「高校生は立派な社会人。その責任がある。今までは親の義務の中のことで、これからは自分で責任ある行動をしないといけないよ」と。

うなずき自覚をしてくれた態度の眼力は輝いていました。

森山の家の初代さん達も、今日を夢見て、我を忘れて苦難の道中をお通りいただいたおかげでしょう。この「お道の教え」が、代々続いてきたからこそ、見せて戴く御守護の姿であると・・・。

そして、これからの未来へ …… 今やらなければならないのが次代への伝道 …… 陽気な喜びの毎日へ …… 「楽しくなければ、天理教じゃない！」そう云った雰囲気がただよう人に成人していただきたい。彼に、我を忘れるほど真剣に「御用の上」に通っていただきたいものです。

教祖130年祭のその日には、更なるステップで目指すメダリストで元気に活躍していることを、祖父母や両親と一緒に応援しに行きたいものと、語らい夢見る講社祭の直会です。

（寄稿：瑞雲分教会長･西村彦一氏）

立教百七十六年 七月月次祭 祭典役割表

祭主	扈者		講話
大教会長様	岡﨑真一	三島渉	田中隆之

役割／区分	地方	おつとめをどり	笛	ちゃんぽん	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓
坐り勤	吉岡壽	大教会長様	中島誠治	森本忠平	田中隆之	田林久嗣	淺野明教	上原志郎	上原順子	今川佐智子	虫明好美
	今川昌彦	岡本久善									
	上原浩	上原繁道									
		大教会奥様									
		田中ますみ									
		門脇郁子									
前半	中村邦義	中村剛	虫明立生	山野弘実	横山逸郎	山田敏教	高木昭祥	岡﨑輝彦	佐藤香苗	森本冨美子	岡﨑豊子
	谷内伸自	門脇元教									
	中村道徳	三島渉									
		武内正美									
		内海安子									
		笹尾一美									
後半	上原繁道	岡﨑和夫	森本忠善	赤木素志	内海史郎	武内清明	渡邉隆夫	佐藤真孝	谷内美知子	三島照美	横山小智榮
	笹尾正治	岡﨑真一									
	吉岡誠一郎	杉原博之									
		門脇加津									
		高木孝子									
		中村初美									

九月講話	指図方	賛者	
笹尾正治	上原繁道	淺野明教	横山逸郎

＜神 事 部＞

○秋季霊祭に際する合祀祭

・今年の秋季霊祭より、大教会役員･おつとめ奉仕人･部内教会長の出直に際しては、直後の春秋霊祭で合祀することになりました。

・これに伴ない、今秋季霊祭において、下記の各柱を大教会祖霊舎に合祀いたします。
三宅善久氏（稲瀬）・佐藤理生人氏（陽實）・重政禎子姉（仲條）

・その他、教会長配偶者･よふぼく･信者等で、合祀を願い出られる場合、９月１８日までに神事部長へ連絡してください。

＜庶 務 部＞

○『名称録』の改訂

・誤植がありましたので、添付の用紙を切り貼りして訂正願います。
「正誤表」のページ番号が２ページずれておりました。

＜布 教 部＞

○本部食堂ひのきしん

期　間　　１０月１日（火）～１５日（火）
割　当　　東ブロック

＜青 年 会＞

○全分会布教推進週間

期　間　　９月１日（日）～８日（日）

七月月次祭祭文

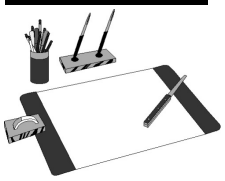
これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます
親神様には一列子供かわいい一杯の親心によります御守護とお導きを頂いて 日々は結構に恙なくお連れ通り頂く中に 今年は早々に梅雨も明け日増しに大きくなるセミの声と共に暑さも弥増し 今正に真夏を味わわせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は「かしものかりもの」の喜びだけではなく 四季折々の気候や食べ物の変化まで味わわせて頂く喜び心一杯に 日々は朝夕に御礼申し上げつつ 教祖百三十年祭の時旬も得てにをいがけおたすけにとたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております
その中にも今日の吉日は七月の月次祭を執り行う定めの日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び心たすけ心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には厳しい暑さも厭わず 一万二千六百四十九枚のおたすけお願いカードに込められた日頃のたすけ心を持ち寄りました道の子供達が相共にお歌を唱和し 尚一層のたすけを願う皆の真実の状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
さて今年もこどもおぢばがえりが目前となりました 募集の上に余念はありませんが 何卒おぢばがえりの際には盛夏の折でもあり熱中症や事故怪我等の無いようお連れ通りの程をお願い申し上げます 又八月には英語講習会 学生生徒修養会高校の部 野外キャンプ そして各教会でのお泊まり会等を通じて子供達に積極的に声を掛け参加を促すだけでなく 道の大切さや親の思いを伝えて道の後継者育成へと繋げていく所存でございます 更には又本年の中間に当たり改めて年頭の心定めと諭達巡教に思いを致し 教祖百三十年祭へ向けての「祈る・動く・つなぐ」の成人目標の実動に邁進させて頂く覚悟でございます
何卒親神様には 個人主義の世の風潮に流される事なくたすけ合いを実践する皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り 人々が親心に触れたすけ合いの心に立て替わってお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内　容　①小随筆　②教会・布教所の独自の活動の紹介　③俳句・和歌・川柳　④教会行事開催後の報告記事 等々

字　数　１０００字前後（８００字～１２００字）題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@yahoo.co.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

立教176年8月10日終講

三郡　谷本裕太

◎直属ひのきしん特別隊

自　立教176年7月1日
至　立教176年7月23日

三郡　谷本裕太

◎本部食堂ひのきしん

自　立教176年7月16日
至　立教176年7月31日

福山　福田恵司

◎こどもおぢばがえり詰所受け入れひのきしん

▼前半　自　立教176年7月25日
　　至　立教176年7月31日

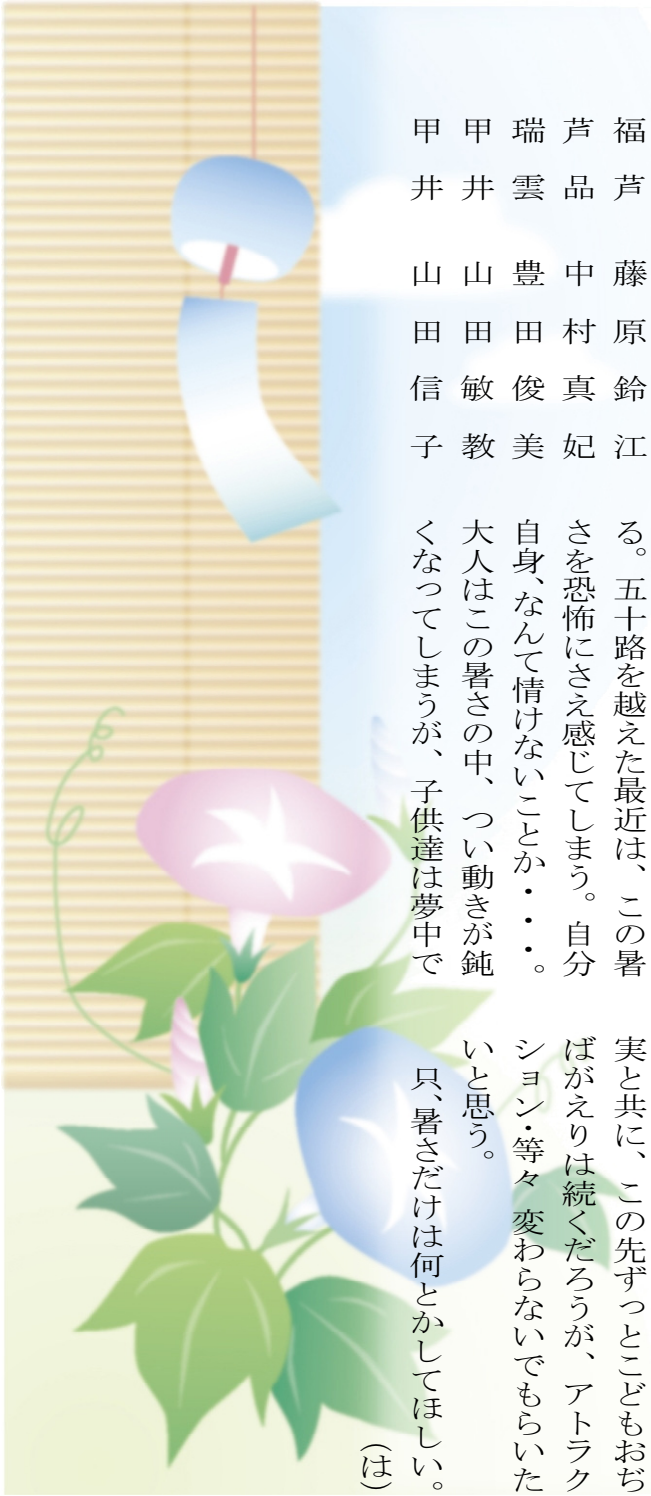
東ブロック　徳山毅
西ブロック　内海安子
福山ブロック　藤原鈴江
高屋ブロック　高橋竜二
島根ブロック　雑賀元生
上府ブロック　北井幸江

▼後半　自　立教176年7月31日
　　至　立教176年8月4日

東ブロック　樋上謙二
西ブロック　中村邦義
福山ブロック　福島恒彦
高屋ブロック　藤井宏一
島根ブロック　三代あゆみ
上府ブロック　山田信子

▼有志

笠岡　松田祐亮
福芦　藤原徳美
福芦　藤原鈴江
芦品　中村真妃
瑞雲　豊田俊美
甲井　山田敏教
甲井　山田信子



よりみち

照りつける太陽と蝉の声。神苑に鳴り響く鼓笛の音。今年もこどもおぢばがえりに子供と一緒に参加させて頂いた。

年々思うことだが、おぢばの厳しい暑さは体に堪（こた）えてしまう。次の行事会場までの道のりを歩くだけで汗だくになり、頭はボーとして、怠（だる）くて日陰に腰掛けずには居られなくなる。五十路を越えた最近は、この暑さを恐怖にさえ感じてしまう。自分自身、なんて情けないことか・・・。大人はこの暑さの中、つい動きが鈍くなってしまうが、子供達は夢中でアトラクションに参加して楽しんでいる。見ていてとても気持ちが良い。

最近の子供達の遊びがネットやゲーム機に変わっていく中、こどもおぢばがえりのアトラクションは、私が子供の頃とさほど変わっていない。仮想の空間や一人の時間を楽しむことの多い今の子供達には、人と人とが触れ合い、シンプルで体を使った遊びが真新しく映っているのかも知れない。きっとこの体中を通して得たものが忘れられない記憶になるだろう。支える多くの方々の真実と共に、この先ずっとこどもおぢばがえりは続くだろうが、アトラクション・等々変わらないでもらいたいと思う。

只、暑さだけは何とかしてほしい。

（は）